

# 番傘川柳本社

## 1月投句句会

締め切り……令和7年12月15日  
 参加者……………91名  
 投句整理……………柴田桂子  
 名簿作成……………中岡千代美  
 清記……………西上遊二

### 宿題 光 香川 大選

太陽が大好きと言う光る海 桑野まりこ  
 子どもってすごいそれぞれ光ってる 安西 廣恭  
 光射す明日が見たい足の裏 田中五十鈴  
 水光る波とたわむる足の裏 横山 順子  
 太陽と歩いて増やす骨密度 福本 清美  
 駆けの子の背中に光るランドセル 大岩 郁夫  
 十月の雨に黄金の田が光る 田淵 愛子  
 モテ男光源氏は日本一 高橋 孝造  
 新薬ができて持病に光さす 替地三枝子  
 ストレスが日光浴で消えていく 住田 照水  
 夜勤明けお疲れさんと日の光 西川 東岳  
 過疎の地に光差し込むUターン 稲垣 義舟  
 古希の手習いわたくし光りだす予感 高瀬 秀子  
 西日刺す障子に映る吊し柿 穴戸三喜恵  
 思いつき笑い命を光らせる 田中きみ子

日の光老いの愚痴さえ包み込む 惠利 菊江  
 御来光今か今かと登山靴 富永 熙子  
 独裁者光と影が付き纏う 西谷 公造  
 お誘いが来れば指輪もよく光る 松岡登代子  
 首元に豪華一点主義の石 小林すみれ  
 さざめきの街にひとりのルミナリエ 廣田ひで子  
 喧騒と光の中で孤独知る 黒岩 博美  
 七光り親に似てない普通の子 細川 正章  
 七光りの狸うごめく永田町 森島アツ梗  
 億光年の旅は夢にも出てこない 若山 宗彦  
 億光年もの昔の姿見せる星 黒田るみ子  
 夜勤帰りの月に光に守られて 香川 保子  
 新年の光りをもらう煤払い 常國 喜好  
 ITの光の陰に深い闇 鮎子田嘉子  
 ユネスコの光が届く和紙の里 増田 頼保  
 歴史が語る大黒柱光る艶 掃部 博隆  
 植樹して森は緑の光抱く 村上 哲子

### 宿題 仄 感 稲葉 良岩 選

花火師が競う夜空のページェント 山口由利子  
 思いやる心きらきら光りだす 神内 澄子  
 文脈を辿れば光るファンタジー 主税みずほ  
 光背で有り難味増す仏様 南 高志  
 そうだった光は木霊より速い 龍田 清成  
 子を想い母は心の灯を点す 栗原つや子  
 ありがとう光る言葉で決めている 島田千代子  
 光るもの捨ててゼロから第一歩 小林 祥司  
 栄光の旅立ち我も四股を踏む 香川 大

子ども食堂らの笑顔と食べっぷり 鮎子田嘉子  
 三姉妹九十歳過ぎてみな元気 大岩 郁夫  
 園児でも凄い見せ場の学芸会 龍田 清成  
 食卓が世界遺産になる和食 茶谷 好太  
 一人の第九巳年を締め括る 碓水 祥昭  
 OSKダンスに酔った足美人 掃部 博隆  
 家中に年神様のお正月 みよしすみこ  
 ボーリング古希で達成パーフェクト 大岩 郁夫  
 気球から四方八方見る景色 高瀬 秀子  
 満席のトランペットに酔う夕べ 松岡登代子  
 大谷の場外飛ばす打撃音 細川 正章  
 日本人トリオでWSを制す 碓水 祥昭  
 圧巻の上をゆく圧巻が居た 中谷 栄子  
 ゴング鳴り五秒でダウン挑戦者 村田 賢爾

ジョン・ウェインに憧れ見ていた西部劇

圧巻が飛び込んでくる手が伸びる

光君で男社会を揶揄の筆

腹に響く生演奏のド迫力

哀愁をおびた本場のフラメンコ

あの老女服のセンスに胸を打つ

千体の観音像が御座す堂

国宝が織りなす技と彩りと

雲海のこれが自然のなせる技

満天の星冬の銀河に目を瞠る

機上より見る雲海の富士の山

天井で睨む天狗の鋭い目

襖絵の虎の眼光身がすくむ

藤井満洲夫

神内 澄子

穴戸三喜恵

中村八十八

小林すみれ

諸富 幹夫

田中五十鈴

中武 弓

中村八十八

田中きみ子

西川 東岳

西陣 五朗

山口由利子

寒ぶりを何事も無くひと捌き

祝福をあびてうれしさ倍になる

年金日一人で飲んだロゼワイン

おこぼれを少し貰って祝いの酒

百歳を白髪の子らが祝う膳

祝いの酒フライングするダルマさん

ジーパンの嫁と祝った初対面

いい話やっとな番の熨斗袋

本人はずっと寝ていたお食い初め

呱呱の声ぐるみで祝う過疎の村

生きているただそれだけで祝いの酒

古希祝う膳の小骨が多すぎる

祝いだと一升提げて友が来る

原 加代子

豊田 佳子

村上 哲子

西澤 司郎

栗原つや子

村田 賢爾

主税みずほ

戸田 清孝

常國 喜好

羽生 悦郎

入江 秀雄

弘津 明子

西谷 公造

ぬるま湯を出て孫旅立ちの祝いの酒

後継者出来たと祝う過疎の里

祝い返し父は十八番の黒田節

ささやかに晩節祝うダイヤ婚

定年を祝った日目が遠くなり

祝う会まだまだ伸びる通過点

新春を祝う上座に福の神

宴引けてお持ち帰りのにらみ鯛

長寿を祝う裏で介護の泣き笑い

身に余る祝辞を抱いて舟出する

新たな出会いあの日別れ祝いたい

ヒラでいい悔いなき自己に祝杯を

嫁ぐ娘に母は肉じゃがが伝授する

田中きみ子

水戸 二七

青嶋由紀美

山田 順啓

田淵 愛子

富川 章

富永 熙子

山口由利子

掃部 博隆

替地三枝子

黒田るみ子

安西 廣恭

大岩 郁夫

志方 智外

黒岩 博美

藤井満洲夫

福本 清美

松岡登代子

祝杯の底に残った嫉妬心

別便で薔薇百本を送ります

祝ひ膳午後には雪も止むだろう

宿題 予 感

中岡千代美 選

一番星がウインクをする好い予感

ニット帽脱ぎたくなって春予感

当たらずとも良かったこの予感

確水 祥昭

替地三枝子

中谷 栄子

虹を見た何かい事ある予感

再会の予感あなたの夢を見た

香川 保子

小林すみれ

宿題 祝

大西 將文 選

祝福を白髪の子らが祝う膳

祝いの酒フライングするダルマさん

ジーパンの嫁と祝った初対面

いい話やっとな番の熨斗袋

戸田 清孝

常國 喜好

羽生 悦郎

入江 秀雄

弘津 明子

西谷 公造

阿部 俊八

橘 和美

稲垣 義舟

穴戸三喜恵

桑野まりこ

高瀬 秀子

小林すみれ

西川 東岳

村田 繁一

毛利 元子

お祝いはお言葉よりものし袋

慎ましく米寿へ手製ちゃんちゃんこ

退院を祝う健康噛みしめる

小林 祥司

桑野まりこ

竹明なおみ

瀬戸 波紋

若山 宗彦

志方 智外

福本 清美

廣田ひで子

阿部 俊八

穴戸三喜恵

栗原つや子

山口由利子

西陣 五朗

西川 東岳

田中きみ子

中村八十八

中武 弓

諸富 幹夫

小林すみれ

中村八十八

穴戸三喜恵

神内 澄子

藤井満洲夫

胸騒ぎ電車一本遅らせる

筆まめの友の無沙汰に胸騒ぎ

元カノと復活しそう同窓会

良い予感餅がふっくらこげました

雷鳴がきつとの予感覆す

父の声聞こえた虫の知らせかも

白物家電寿命の次は冷蔵庫

予感通り溝を作った遺産分け

頭振り悪い予感を振り払う

茶柱が立って好い日になる予感

二重虹何かうれしい予感

再会の予感か朝やけがきれい

仲直りの予感はずれて一人お茶

よく当たる予感はいつも悪い方

鬼気迫る予感女に敵わない

雲行きが怪しい妻の丁寧語

7四つの車番に出会う今日は吉

いい予感当るといいな待ち合わせ

今日は晴れ君が来そうでルージュ引く

心音が高まる君に逢う予感

来る来ない来ると信じて待っている

明日は雪冷え込む空の星月夜

宝くじそろそろ僕にあたるころ

風見鶏悪い予感の方へ向く

夢はただ夢で終わって行く様で

高瀬 秀子

栗原つや子

大岩 郁夫

掃部 博隆

福本 清美

黒田るみ子

竹明なおみ

三瀬清一郎

藤井満洲夫

諸富 幹夫

谷口委佐子

中武 弓

横山 順子

豊田 佳子

茶谷 好太

田中五十鈴

碓氷 祥昭

山口由利子

鮎子田嘉子

細川 正章

若山 宗彦

山岸 峰隆

橋本 恭治

常國 喜好

佐藤 后子

そわそわと月下美人の咲く気配

笑ったら治る予感がする術後

くつひもが切れて外出止めにする

嫌な予感じっとしている聴診器

十億が予感で終わる大晦日

大雪の予感大気が透きとおる

初期化して悪い予感を振り払う

そんな事だと思っただよ君の事

良い予感していたなんて後日談

おみくじを桜に結び笑顔待つ

宿題 こぼれる

居谷真理子 選

なみなみへオットーと口がゆく

時を経て少し笑顔がこぼれ出す

抜け穴だらけ当てにならない法整備

本筋をこぼれているが面白い

笑顔からこぼれる様な人間味

添えた手にはろりと愚痴が聞き上手

落ちこぼれたと自虐して雑魚の群れ

老い救う言いつつ老いははじき出す

種こぼし何を企む鳳仙花

隠してもポロリこぼれるのが本音

うっかりと洩らす話につく尾鰭

思い出が湧いてこぼれるクラス会

匿名にすると本音が迸る

田中きみ子

住田 照水

藤井満洲夫

山田 順啓

西川 東岳

西谷 公造

みよしすみこ

中谷 栄子

中村八十八

鮎子田嘉子

青嶋由紀美

水戸 二七

土居 直子

吉丸 等

桑野まりこ

穴戸三喜恵

橋本 恭治

羽生 悦郎

田渕 愛子

豊田 佳子

毛利 元子

久崎 田甫

廣田ひで子

幸せがこぼれそうだと蓋をする

受け皿のこぼれが旨い枳の酒

ポタポタとこぼれる記憶フタが無い

国訛りポロリこぼれる母の文

グロップからぼろり走者が生きかえる

欲の手からこぼれていった青い鳥

こぼれ出す涙をベンですくいとる

待ち人に笑みがこぼれる駅ホーム

花道の奥金星へ良い笑顔

こぼれ落ちるご飯黙って見る介護

本心に糸口つけるアルコール

宅急便開ければ春の笑い声

制服よさらばに色気こぼれ出る

鈍行にこぼれる春と国なまり

こぼれ種だった私が根を伸ばす

おこぼれをいたたく村度の極み

駆け込み寺においでおいでとこぼれ萩

海馬から昨日の飯が出てこない

窓明から家族の笑い声こぼれ

幸せのこぼれ話に夜がふける

砂時計少し休憩しませんか

本物の涙すくにはこぼれない

年の瀬の愚痴のこぼれる米売り場

駅伝の涙の2秒11位

愚痴聞いてもらった鍋が吹きこぼれ

田中 堂太

能田 文夫

鈴木かつえ

細川 正章

橋本 恭治

森島アツ梗

鮎子田嘉子

西川 東岳

中村八十八

黒田るみ子

福本 清美

高瀬 秀子

村田 繁一

田中五十鈴

山岸 洋美

山田 順啓

茶谷 好太

阿部 俊八

替地三枝子

大島美智代

福本 清美

小林すみれ

藤井満洲夫

村田 賢爾

みよしすみこ

泣く時は心のゴミを思い切り  
坪庭へいつか主役のこぼれ種  
戸田 清孝

宿題 ゆうゆう 片岡 加代 選

ゆうゆうと浸かるゆず湯の年の暮れ  
悠々自適といけなくなる物価高  
入江 晴菜

ゆうゆうと貯めたお金が詐欺にあう  
計画の悠々自適とはいかず  
塩谷 邦子

猿軍団ゆうゆう渡る国道を  
熊の親子ゆうゆうと街中に出る  
大岩 郁夫

ゆうゆうと見せて内心汗だらけ  
ゆうゆうと大差をつけてゴールイン  
西澤 司郎

妻の留守のんびり過す昼下がりに  
午前中頑張り午後はゆうゆうと  
水戸 二七

晴耕雨読ゆうゆうと父の鎌  
笑顔なら貯蓄してますまだ余裕  
谷口委佐子

ゆうゆうと暮らせるはずへ大誤算  
年金で老後安泰だったはず  
能田 文夫

ライバルのゆうゆう顔が気に入らぬ  
海原は広いかゆうゆうと鯨  
中村八十八

青空を独り占めする熱気球  
ライバルに勝ちを譲って行く孤高  
福本 清美

せきもあわてもしないあなたの靴の音  
出来るなら悠悠閑閑なる暮らし  
藤井満洲夫

ゆうゆうと生き死んで逝くのもゆうゆうと  
青嶋由紀美

ゆうゆうと銀座歩行者日曜日  
独り湯治朝寝朝酒地獄蒸し  
坂本 和子

趣味一つゆったり過ごす定年後  
テストではまだまだセーフ認知症  
戸三喜恵

ゆうゆうと空に輝く富士の山  
大海をクジラゆうゆう立ち泳ぎ  
嶋 喜八郎

ゆうゆうと遅刻常習あつけらん  
ゆうゆうと赤信号を渡る鹿  
南 高志

ゆうゆうと市民マラソン最後尾  
ゆうゆうと見せる為にも背筋ピン  
鈴木かつえ

大器晩成ゆうゆうし過ぎまた未完  
晩学の指はゆうゆう辞書を繰る  
土居 直子

悠々と手を振りベース四つ踏む  
ゆうゆうと今日三本のホームラン  
毛利 元子

悠々と星が流れる冬銀河  
ゆうゆうと逝く残高を0にして  
栗原つや子

悠々と歩くと影に叱られる  
ゆうゆうと後方待機それもいい  
桑野まりこ

ゆうゆうと歩いていきます走れない  
解答を三度見直す受験場  
常國 喜好

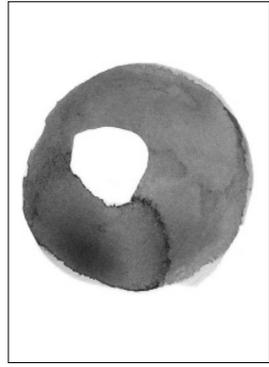
悠々自適あとは曾孫を待っている  
模試みんなA判定の受験生  
掃部 博隆

暖かい布団だ今日は日曜日  
人生の残り時間をかたつむり  
富川 章

# イメージ吟募集

2026年5月号(3月15日必着)

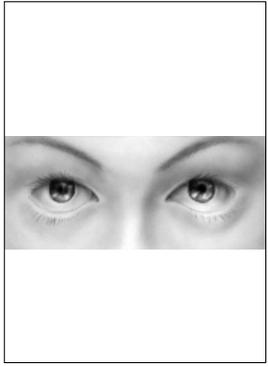
第127回 イメージ吟(2句)



※番号3月号の投句用紙をご利用ください。

2026年6月号(4月15日必着)

第128回 イメージ吟(2句)



※番号4月号の投句用紙をご利用ください。